

東電福島原発大惨事の被害から子どもたちを守るために私たちの果たす役割は何か。

# チェルノブイリーフクシマ ～ドイツの経験から学ぶ～

インゲ・シュミッツ-フォイヤハーケさんと  
セバスチャン・プフルークバイルさんを迎えて

日時：2012年6月28日（木）14:00～17:00（開場 13:30）

会場：キャンパスプラザ京都2Fホール

（京都市下京区西洞院通塩小路下る／TEL：075-353-9111）

資料代：一般1,500円（学生料金：500円）

（当日参加可）

どなたでもご参加いただけます

## プログラム

14:00～ 開会挨拶 三宅 成恒 氏（IPPNW京都府支部支部長）

14:05～ 基調報告 松井 英介 氏（岐阜環境医学研究所）

14:10～ 講演

① 津田 敏秀 氏（環境疫学・岡山大学）

「100ミリシーベルト問題と原発事故健康障害に関わる疫学調査」（20分）

② Inge Schmitz-Feuerhake インゲ・シュミッツ-フォイヤハーケ 氏  
（物理学・元ブレーメン大学）

「100ミリシーベルト閾値の欺瞞、低線量被曝の影響」（40分）

③ Sebastian Pflugbeil セバスチャン・プフルークバイル 氏  
（物理学・ドイツ放射線防護協会）

「原発通常運転における健康被害—ドイツ—」（40分）

15:50～ 休憩（10分）

16:00～ 参加者を交えて質疑応答・意見交換（55分）

16:55～ 閉会挨拶 吉田 均 氏（原発の危険から子どもを守る北陸医師の会）

17:00 終了

司会：松井 英介 氏（岐阜環境医学研究所）

通訳：ヴィンシャーマン 敏 氏（ドイツ語—日本語）

※講演会の模様は USTREAM でライブ配信いたします。ご了承ください。



**Inge Schmitz-Feuerhake (インゲ・シュミッツ-フォイヤハーケ)**

1935 年生まれ。物理学と数学を学ぶ。1973 年～2000 年、ブレーメン大学の実験物理学教授。線量測定分野で研究、放射線防護と放射線源の健康への影響に特に焦点を当てた。80 年～、積極的にドイツの放射線誘発白血病クラスターに関わり、ドイツ放射線防護協会の創設の一員となる。放射線リスク(ECRR)に関する欧州委員会の委員長。

**Sebastian Pflugbeil (セバスチャン・プフルークバイル)**

1947 年生まれ。物理学者、ドイツ放射線防護協会会長。ECRR 理事。1989 年以後、ドイツ統一の過程の中で、暫定政府であった「円卓会議」で大臣として入閣。チェルノブイリ事故の諸結果についての専門家、数年間にわたり現場調査。1990 年ベルリンにて市民団体「チェルノブイリの子どもたち」を創設、長年ドイツ・チェルノブイリ支援協会の理事を務める。原発周辺の子どものがん発病率増加について研究調査。



●アクセス



《問い合わせ》

共催：市民と科学者の内部被爆問題研究会（松井英介 TEL：058-296-4038 FAX：058-296-3903）  
 核戦争防止国際医師会議京都府支部（京都市中京区七観音町 637 第 41 長栄カーニープ  
 レイス四条烏丸 6 F 京都府保険医協会気付  
 担当・乾谷【いぬいたに】 TEL：075-212-8877 FAX：075-212-0707  
 e-mail：info@hokeni.jp）  
 協力：核兵器廃絶ネットワーク京都